市長定例記者会見（令和４年４月２６日）録

１１時３０分～１１時５７分

まず、題材に入ります前に、新型コロナウイルス感染症の感染状況に関しまして、一言申しあげたいと存じます。

本市の新規感染者数は、４月入ってから、１週間程度は1日当たり１５０から１７０人程度と、横ばいで推移しておりましたが、１１日以降は、検査数が少なくなる日曜日を除くと、連日２００人を超える状況になってきており、全体的に、増減を繰り返しながらの、高止まりで、横ばいの状態といった感じかと存じます。

一方、年代別の累積新規感染者数の推移では、ピーク時より少ないとはいえ、４月１０日頃から、１０歳未満の子どもの感染者は、再び増加傾向となり、特に、１０歳代の感染者も、急拡大しておりますものの、現在は、少し落ち着きを取り戻しつつあります。こちらも、ここ数日は、全ての年代において、おおむね横ばいの状態が続いております。

現在、全国では、感染者が継続的に増加している地域もあれば、減少している地域もあり、感染状況の推移に差が生じておりますが、本市を含む香川県におきましては、高止まりが続いている状況となっており、さらには、オミクロン株の派生型で、より感染力が強いとされる「ＢＡ・２」への置き換わりも進んでおりますので、より感染が広がる恐れもございます。

このような中、今週末から、ゴールデンウィークが始まります。ゴールデンウィーク期間中は、旅行や帰省などで、人の移動が増えるとともに、会食の機会なども多くなることが予想されます。

このような場面では、どうしても気が緩みがちになりますので、今後の感染拡大の引き金とならないよう、引き続き、「３密の回避」や「人と人との距離の確保」、「手洗いや手指消毒の徹底」、「不織布マスクの着用」など、感染防止対策に高い意識をもって行動していただくよう、お願いいたします。

また、長時間・大人数での会食は、感染リスクが高まりますので、会食時は、飲食店の感染防止対策にも着目しつつ、「同一テーブルで４人以内」、「２時間以内」、また「マスク会食」や「席の間隔を十分に取って」楽しんでいただきま

すよう、お願いいたします。

一方、新型コロナワクチンの接種につきましては、４月２１日（木）時点で、３回目接種を終えた方は、１９４，８１０人、接種率は、４５．７％で、
そのうち、２０歳代は、２６％、３０歳代は、２９％と、２０％台に留まっている状況でございます。

こうした状況を踏まえ、本市では、先週２３日（土）から、特に、若い世代の新型コロナワクチン接種の促進策といたしまして、ファイザー社製ワクチンによる集団接種を開始しているところでございます。

昨日２５日（月）からは、５月３日（火）・４日（水）など、計８日間の集団接種の予約を、本市の予約サイト、コールセンターで受け付けておりますが、全日程において、まだ予約枠に空きがある状況でございます。

さらに、５月５日（木）から延べ５日間、武田／モデルナ社製ワクチンによる予約なしでの集団接種も実施いたします。

本市といたしましては、２回目接種を終えられた多くの方が６か月を経過する、本年５月末までを目途に、希望する全ての方の接種を終えることができるよう、取り組んでいるところでございます。

多くの方に少しでも早く接種していただくことが、感染収束への近道であるものと存じます。

市民の皆様におかれましては、是非とも、積極的な接種について御検討いただきますとともに、今回の集中取組による、この機会を、ぜひ御活用いただきますよう、お願い申しあげます。

それでは、題材に入らせていただきます。本日は３点ございます。

まず、１点目は、本年１月に実施いたしました「令和３年度市民満足度調査」の結果をとりまとめましたので、御報告するものでございます。

本市では、毎年、市民の皆様の御意見を今後の市政に反映させるため、「高松市への愛着度」や「住みやすさ」などのほか、総合計画の基本構想で定めている６０項目の施策について満足度等を調査しておりますが、今回も昨年に続き、新型コロナウイルス感染症に対する本市の取組に関しての質問も設けて実施いたしました。

調査の対象者は、住民基本台帳から無作為抽出した満１８歳以上の市民２，５０

０人でございます。調査期間は、本年１月１５日から１月３１日までで、回答者は、８４８人で、回収率は、前回より５．９ポイント低い３３．９％となっております。

調査結果の詳細につきましては、お配りしております調査結果報告書と概要を御覧いただきたいと存じます。では、簡単に御説明させていただきます。

まず、本市についての質問では、９割近い方が、高松市への愛着や住みやすさを感じ、定住の意向があるとの回答でございました。

特に「愛着度」については、６０歳代の「愛着を感じる」「やや愛着を感じる」と回答した割合が、昨年に比べ、約１２ポイント増えており、また、「住みやすさ」については、４０歳代の「住みよい」「まあまあ住みよい」と回答した割合が、約７ポイント増えております。

続いて、施策全体に対する満足度は、「満足」と「やや満足」を合わせた「満足度は２８．４％、「不満」と「やや不満」を合わせた「不満度」は１７．１％となっており、いずれも昨年度と比べ、大きな変化はございませんでした。

また、各施策の満足度でございますが、昨年度との比較で、「商工業の振興」などの「満足度」が増加した一方で、「生活困窮者等への自立支援」や「地域福祉の推進」、「医療体制の充実」の「不満度」が増加しております。

これにつきましては、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた生活困窮者への支援や、ワクチン接種を含めた医療提供体制の充実を望む市民の皆様の声が、反映されたものと考えております。

次に、各施策の満足度と重要度の関係でございますが、満足度・重要度がともに高い「領域Ａ」に分類される施策数は、昨年度と比べ、２施策減り１５施策になっております。

また、重要度が高いが満足度は低い「領域Ｃ」に分類される施策数は、１施策減り１３施策となっておりますが、「地域福祉の推進」、「地域包括ケアシステムの構築」、「社会保障制度の適切な運営」などが「領域Ａ」から「領域Ｃ」に移動しており、こちらにつきましても、新型コロナウイルス感染症の影響により、満足度が低下しているものと推測されます。

次に、新型コロナウイルス感染症に対する取組に関しては、８割近い方が、「重要」「やや重要」と回答し、「医療提供体制の整備等」、「感染リスクの削

減や行動変容の徹底」に関する御意見を数多くいただいております。

今回の調査結果を受けまして、事業の見直しを始め、新たな事業の実施や、新型コロナウイルス感染症対策の改善などに取り組み、市民の皆様が安心して暮らすことができ、また、誰もが暮らしたい、訪れたいと思えるような魅力あるまちづくりに、引き続き取り組んでまいりたいと存じます。

２点目は、「市民後見人の誕生について」でございます。

本市では、「認知症」や「知的障がい」などで判断能力が不十分な方の権利を守る成年後見制度につきまして、弁護士や司法書士、社会福祉士などの専門職ではなく、市民目線で後見人としての職務を行う「市民後見人」を養成するため「高松市市民後見人養成講座」を令和元年度から実施しています。

このたび、養成講座を修了し、市民後見人候補者名簿に登録されている5名のうち、３名の方が、高松家庭裁判所から市民後見人として選任を受け、令和４年３月から活動を開始しており、残りの2名の方は、現在、選任に向けた手続きが進められているところでございます。

なお、市民後見人が選任されるのは、本市では初めてで、県内自治体では４例目となります。

市民後見人の方々は、判断能力が不十分な方に代わって、税金や光熱水費などの日常的な支払いを始め、介護保険や障害福祉サービスの利用手続き、施設の入退所の契約などについて活動いただきます。

市民後見人の皆様には、地域共生社会の実現に向けて、同じ地域で暮らす住民同士という強みを発揮し、本人の意思や生き方が尊重される社会づくりに貢献いただけるような御活躍を期待しています。

また、本市といたしましては、今後とも、養成講座を実施し、市民後見人として活動できる人材の育成に取り組んでまいりますとともに、市民後見人の活動が、地域における福祉活動の一つとして定着するよう努めてまいりたいと存じます。

３点目は、「高松春のまつりフラワーフェスティバル２０２２の開催について」でございます。

本市では、市民との協働による花いっぱいのまちづくりを推進するため、毎年「高松春のまつりフラワーフェスティバル」を開催しているところでございま

す。

今年度も、５月３日（火）と４日（水）の２日間、開催いたします。

今回は、「瀬戸内国際芸術祭２０２２」の春会期の期間中でもありますことから、瀬戸芸の来場者にも楽しんでいただけるよう、会場を中央公園から玉藻公園に移しての開催といたします。

当日は、「二の丸跡」などを、９種類・約３２，０００本の草花、約３，０００本の切り花で装飾いたします。

また、高校生による即興の生け花パフォーマンスを始め、花のプレゼントクイズラリーや、丸太切り、フラワーアレンジメントなどの仕事体験、各種ステージイベントなどを楽しんでいだだけます。

さらに、現在、復元工事が進む「桜御門」も御覧いただけます。

「フラワーフェスティバル」の開催は、長引くコロナ禍において、多くの市民の皆様に、花と緑の力で、笑顔と元気をもたらすことができればと存じます。

なお、会場へのお越しの際は、不織布マスクの着用、人と人との距離の確保など、感染防止対策に、御協力をよろしくお願いいたします。

【記者質問】

【記者】

瀬戸内国際芸術祭では、島と陸地側の交流促進を進める計画だが、高松市の独自イベント等開催の予定は。

【市長】

５回目の瀬戸内国際芸術祭が４月１４日から始まったところです。今回の芸術祭では、重点的な取組の一つとして、「瀬戸内の里海・里山の隠れた資源の発掘と発信」を掲げており、会場となる島々以外のエリアにおいても、作品展開やイベントを開催することで、来場者の周遊を促そう、島ばっかりに固まることを避けようということで行われています。

まず、芸術祭公式イベントとしては、高松市内で行われるものとして、先日リニューアルオープンいたしました「四国村ミウゼアム」で、５月１５日（日）に「瀬戸内仕事歌（せとうち しごとうた）＆四国民話オペラ『二人奥方（ふたりおくがた）』」の開催が予定されております。

また、関連イベントとして、アーティストと地域住民が共に企画運営する「かがわ・山なみ芸術祭2022」の塩江町エリアでの作品展開（5/21～6/26）などがあります。

一方、本市独自のイベントといたしましては、夏会期（8/5～9/4）に屋島山上交流拠点施設「やしまーる」がオープンをし、さらに、秋会期（9/29～11/6）には、パノラマアート作品の鑑賞も可能となる予定であり、「やしまーる」などを生かした、様々なイベントの開催に取り組んでいくこととしています。

また、高松港周辺では、芸術祭の春会期に合わせて、サンポート高松の多目的広場におきまして、５月５日（木）に音楽イベント「TAKAMATSU MUSIC BLUE FES 2022」を開催するほか、時期は未定ですが、一流のパフォーマーが集結する「たかまつ大道芸フェスタ」といったイベントの実施も予定しております。

また、現在、復元整備を進めております高松城跡（玉藻公園）の桜御門が、夏会期までには一般公開となる予定でありますことから、島巡りで現代アートを楽しまれた来場者の皆様に、本市の文化芸術や文化財にも触れていただきたいと考えております。

【記者】

瀬戸内国際芸術祭の来場者等が新型コロナウイルスに感染したことに対する受け止めと、今後の対策は。

【市長】

この度、女木島に来場された方の感染確認、豊島で芸術祭を担当していた方の確認がありました。これらによって、島民の皆様を始め、関係者の皆様に御心配をお掛けしています。

事実関係は、一昨日、瀬戸内国際芸術祭実行委員会事務局から詳しく発表があったので、省略させていただきます。

コロナ禍の中での芸術祭ということで、このような陽性患者が発生することは想定されたものであり、実行委員会では、こうした事態も想定して対応指針をきめ細かく具体的に作成しています。今回の女木島内での有症状者の発生に対しても、この対応指針に沿って、看護師への相談、チャーター船での高松港への移動など、それぞれ適切に現実的に対応できたものと考えております。

また、当該来場者が鑑賞した芸術祭の施設の消毒は、実施済みであり、当該来

場者が利用した船や施設の管理者には、事情を説明し、消毒を依頼済みです。

また、芸術祭関係者に濃厚接触者がいないことを確認しているほか、当該来場者に接触した芸術祭の関係者は、全員、抗原定性検査を行い、陰性が確認されています。

いずれにいたしましても、この対応指針は島ごとにきめ細かく示されております。それを、改めて、指針に基づいた対策を徹底していくことが最も大切であると思っておりますので、その旨を実行委員会事務局に私共としても働きかけていきたいと思っています。本市としても、実行委員会と共に、その周知徹底を行ってまいりたい。そもそも市民の皆様にも離島中心に開催される芸術祭であるということで、離島での資源の制約などがあり、狭い離島の中で感染拡大が危惧されることもあるという、そういうところに行くんだという前提に旅行前、鑑賞前の段階で感染対策を確認していただき、徹底して来ていただきたいという旨も周知を図ってまいりたいと思います。

【記者】

新規感染者数の推移が高止まりの状態だが、その要因は。

【市長】

これまでもコロナ禍が起こって２年の間に感染が拡大した時期、収束した時期、あるいは一定に０が続いた時期もありました。それぞれの時期において、どういうものがどう作用してそうなったのかというのは、専門家でないので、はっきりと定かではありません。ただ、今回の第６波の感染拡大期は、変異株の１つであるオミクロン株が感染力が従来のウイルスよりも高いということが大きく影響しているということで、これまでは飛沫感染、接触感染に気をつけて、特に飲食店での感染を抑えるためにまん延防止等重点施策などでも時間短縮要請など対応していましたが、今回のオミクロン株、Ｂ・Ａ２はこれまでよりも相当感染力が強く、いわゆる市中感染も見られると。感染経路が不明という事例が非常に多くみられるということで、感染者数も増えざるを得ず、なかなか収束に向かわないということが、そこにあるのかと思っております。

従いまして、ある程度感染の高止まりが続いていくのは仕方ない部分はありますが、どうにか感染者数が日々抑えられるように、収束に向かうように、マスク着

用、手洗い徹底、人と人との距離、換気の徹底といった基本的な感染対策を市民１人１人に意識していただく。特にゴールデンウイークに入るので、感染拡大になりかねない機会が多くなるということで、いつもよりも注意していただくということをお願いしたいと思います。

【記者】
瀬戸芸の来場者等が新型コロナウイルスに感染したが、島民からの不安の声はあるのか。
【市長】
　関係者の方々にはご説明をさせていただいているとのことです。そういうご意見も十分踏まえた上で色々対応していくことになろうかと思います。

【記者】
市民満足度調査でコロナ対策への取り組みに対し、不満足度が上昇しているが、どう受け止めているのか。
【市長】
　コロナ対策については、先ほどから言っておりますように、何度かの感染拡大時期に応じて、コロナ感染拡大防止対策を取っております。一方で、それによって傷ついている社会経済活動の維持、活性化のための対策を合わせて取っています。そういう中での施策対策としての評価だと思っています。
　先ほども言いましたように、アンケートを取った時期が、１月２１日に高松市を措置区域としたまん延防止等重点措置が開始になった時期、感染拡大が起こっている時期、早く３回目のワクチンを打つべきなどの議論が始まったとき。それが高松市の場合、遅いなどのご意見もいただいています。従いまして、感染拡大と同時に市民の皆様の意識が高くなり、ワクチンに対する関心が高くなった時期なので、いろいろやってくれているという評価と、まだまだ不満だという評価が、相半ばしたと捉えています。